ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

ふるさとだより 9

2014 Sep
NO.40
平成26年9月20日発行
（毎月1回20日発行）

ふるさとの復興を伝えます。 ～久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来～

\ Pick Up /

ふるさとを笑顔にした夏祭り

久之浜
大久

久之浜と大久　二つの夏祭り
久中演奏会など　夏の思い出

四 倉

復興を支える四倉 PA
過ぎゆく夏を惜しんで

平

ふるさとの伝統「獅子祭り」
新潟発　よさこいで交流

小名浜

子どもたちによる獅子舞
津波避難訓練　実施

勿 来

勿来工業フラ愛好会の活動
御宝殿　熊野神社例大祭

今月の笑顔

伝統を受け継ぐ子どもたち

上仁井田子どもじゃんがらは、大浦小学校の児童たち約20名が在籍。毎年6月頃から練習に取り組み、各地のイベントや新盆の家々で、その成果を披露します。写真は6年生のメンバーたち。8月13日、最勝院での奉納じゃんがら念仏踊りの前に、記念撮影しました。

ふるさとだよりの記事が動画で!!

マークのある記事にスマホやタブレットをかざすと動画が見られます!(見方はP11)

若者の力で町に賑わいを
第1回 浜の夏祭り

地区内各団体の青年部や青年会のメンバーが集まり、実行委員会が結成されたのが6月末。実行委員長の漁協壮青年部吉田康男さんを中心に、50年ぶりとなる盆踊りと花火大会の同時開催が決まりました。「全国からの支援と協力で、久之浜は新たなスタートが切れた。そして今、俺ら地元の若者が町を盛り上げていかないと」と実行委員の坪井芳行さん。若い力を結集し、祭りの準備が進みました。

そして迎えた8月11日。盆踊りの櫓(やぐら)そしてステージが海の町・久之浜らしく大漁旗で飾られていきます。屋台が立ち並び、多くの人が故郷の祭りのために集まってきました。午後4時、久之浜出身の岡崎奈津美さんと倉持祥子さんによるユニット「花音」のライブ。黒潮流みつもり太鼓の演奏。海神乱(わだつみらん)舞(ぶ)の演舞などが行われました。

お祭りのオープニングは「花音」のライブから。岡崎さんの歌声が故郷、久之浜に響きわたります

いよいよ震災以降初の盆踊り。片寄清次さんと遠藤知子さんが歌う「いわき盆唄」に合わせ、老いも若きも踊ります。そして5．000人の来場者が空を見上げ、打ち上げられた1．000発の花火が夏の夜空を焦がして祭りは終わりました。

「多くの人が来場し楽しんでくれた。久之浜の次の一歩へ進むためにも、この祭りを続けていきたい」と実行委員長吉田さんが熱く語りました。

家屋の基礎の撤去などの理由から、昨年は見られなかった花火が2年ぶりに久之浜の空に上がりました

久之浜と大久　海と山
初めての祭りと伝統の祭り

8月11日、震災後途絶えていた盆踊りが復活した「第1回 浜の夏祭り」。そして8月23日、大久町「筒木原滝不動尊大祭典」。2つの夏祭りの運営は、故郷の復興への思いを一つにした若者たちでした。

400年続く伝統を守るため
筒木原滝不動大祭典

大久町にある筒木原不動尊。境内のアカガシの大木と樹齢600年とも言われる市の保存樹木・江戸彼岸桜が訪れる人を出迎えます。奈良時代の高僧行基(ぎょうき)が開眼させたという不動明王を安置するための不動堂が建立されたのは貞享(じょうきょう)二年。約430年の歴史を誇り、地元の人からは「お不動様」と呼ばれ親しまれています。

8月23日、24日お不動様のお祭りが行われました。祭りの呼び物は宵祭りでの盆踊り大会。以前は茨城からもバスを手配し、団体客が見物に来たこともあったそうです。筒木原不動青年会(根本政明会長)のメンバーに浜の夏祭り実行委員も加わり、伝統の祭りの準備が行われました。

夕方、屋台に並び焼きそばや焼き鳥を買い求める人、金魚すくいを楽しむ子どもたちで境内が賑わってきました。午後6時半、地元、みつもり太鼓の演奏が行われ盆踊り大会が始まりました。参加者に配られる景品の引換券は予定の300枚では足らず100枚追加しても全員には行き渡らない程の盛況ぶりでした。

「浜の夏祭りを俺ら山の者が手伝い、海の人に、お不動様の祭りを手伝ってもらう。久之浜・大久が一体になって助け合わなくちゃ」と青年会の根本重和さん。初めての祭りをきっかけに深まった若者の交流。久之浜・大久地区の新たな伝統が生まれた夏が終わりました。

浜の夏祭りにも参加した、黒潮流みつもり太鼓がお祭りの雰囲気を盛り上げます

1時間半に渡って行われた盆踊り大会。普段は静かなお不動様が1年で一番賑わう日となりました

復興へ向けた動き

久之浜・大久

久之浜・大久地区 復興グランドデザイン策定記者会見

8月5日、清水敏男市長、吉原二六久之浜・大久地区復興対策協議会会長、遠藤諭グランドデザイン策定部会長が記者会見を行い久之浜・大久地区復興グランドデザインの策定を発表しました。記者会見の席上、吉原会長が「これからの地区のまちづくりの指針ができた。推進組織を立ち上げ進めていきたい」と発言、また遠藤部会長が「グランドデザインは宝の地図。絵に描いた餅にしてはならない」と力強く述べました。

復興対策協議会では、ダイジェスト版を久之浜・大久地区全戸に配布、郵送。今後、内容を広く地区住民に知ってもらうための勉強会の開催を予定しています。ダイジェスト版に加え、詳しい内容の本編をご覧になりたい場合は、いわき市のホームページ・トップページの左上検索欄に「グランドデザイン」と入力検索してください。閲覧に加えて印刷も可能です。

総合防災訓練の実施

8月30日午前8時40分、震度6強の地震が発生し、沿岸部に大津波警報が発表されたとの想定で久之浜地区で津波避難訓練、大久地区で地震避難訓練が行われました。

高齢者など一人での避難困難者を示す玄関の赤い旗。東町立地区での津波避難訓練

CHECK! 動画が見られます

久之浜一小とサポートチーム「防災緑地について考えよう」キッズデザイン賞受賞

昨年度の久之浜一小5・6年生の学習の成果がとサポートチームの活動が評価されました

子どもの安全・安心に貢献するデザインなどを表彰するキッズデザイン賞。被災地の子どもたちが安心して笑顔ある暮らしを取り戻すための取り組みに対し、復興支援デザイン部門が設けられています。久之浜一小と久之浜・大久地区まちづくりサポートチームが、上記部門の最高賞・キッズデザイン協議会会長賞を受賞しました。

昨年度の総合学習「久之浜防災緑地について考えよう」。サポートチームのメンバーが学習の手助けを行い、子どもたちは久之浜に対する思いとまちづくりのアイデアをまとめ上げ、防災緑地ワークショップで発表しました。現在、植栽や運営方法など検討が進む久之浜の防災緑地には子どもたちのアイデアが実際に取り入れられる予定です。

絶景かな！絶景かな！愛宕山にベンチ設置

5月のお祭りで2年連続南町のお神輿を一緒に担いだサポートチーム。ベンチ設営も一緒に作業

CHECK! 動画が見られます

「愛宕山からの絶景を見ながら花見したりお酒飲んだりするベンチを作ろう」8月17日、橋本苍延（もとのぶ）区長ら南町の皆さんとサポートチームがベンチを作り設置しました。久之浜の町を一望できる新名所の誕生です。

久之浜地区放射線量測定記録（各区代表ポイント）

●測定日：平成26年8月27日（天候：曇り）
●測定者：久之浜・大久地区復興対策協議会
●測定器：日立アロカメディカル製 TCS-172（シンチレーションサーベイメーター）

測定ポイント	地上1cm	地上100cm
田之網（田之網集会所）	0.12	0.12
南町（旧道沿い中央部）	0.09	0.12
中町（旧道高木屋旅館付近）	0.09	0.08
北町（久之浜駅前）	0.12	0.12
東町（旧久之浜漁協前）	0.07	0.07
西町1区（西町公園付近）	0.11	0.12
西町2区（久之浜一小正門付近）	0.23	0.20
金ケ沢（鹿野付近）	0.17	0.17
末続（末続駅前）	0.16	0.19
大久（大久公民館付近）	0.12	0.13
筒木原（久之浜二小西門付近）	0.11	0.12
小久（町田橋付近）	0.12	0.13
小山田（小山田集会所付近）	0.16	0.15

単位はすべてμsv/h

※㈱東北イノベーターのHP http://www.thkinnovator.co.jp/ でより詳しい放射線情報をご覧いただけます。

夏の思い出 久之浜・大久

きれいだね！線香花火
第3回 きらきら広場

CHECK! 動画が見られます

毎月第一日曜日に開かれている久之浜町商工会青年部主催のきらきら広場。8月3日、線香花火大会が開かれました

楽しいね！夏祭り
第一幼稚園・保育所　夏祭り

CHECK! 動画が見られます

先生や父母の会の皆さんが出す屋台に並ぶ子供たち。かき氷やお菓子をほおばり、ゲームや盆踊りを楽しみました

祝 県大会金賞受賞
久之浜中吹奏学部の夏

CHECK! 動画が見られます

県大会に出場し見事金賞を獲得した久之浜中吹奏学部。8月24日エブリアでの演奏会で見事なハーモニーを披露

視察や合同供養祭など
真夏の久之浜・大久

CHECK! 動画が見られます

多くの学生たちが視察に訪れた久之浜。合同供養祭や地区の人400名が参加したバーベキューも開かれました

四倉高校が避難所だった時には、店内にあった米を炊いておにぎりを作り、体育館へ届けた猪狩信長さん

震災の復旧作業を陰で支える

常磐自動車道
四倉パーキングエリア
猪狩　信長 さん

原発事故処理の中継基地で炊き出し

震災により深刻な被害を受けた福島第一原発。火災や水素爆発が続く中、被害を食い止めようと、自衛隊員などが懸命に事故処理に取り組みました。

その際、中継基地として機能したのが、常磐自動車道最北のパーキングエリアである、四倉PAです。

常磐自動車道上り線にある四倉パーキングエリア

店内に飾られている、自衛隊から贈られた感謝の楯

同PAを経営する株式会社エイブル(四倉町東二丁目)の猪狩信長社長は、震災で高速道路が通行止めになり、NEXCO東日本の指示でPAの営業を休止した後も、従業員を避難させて、一人で店に残りました。

「PAにテントを張っていた自衛隊員のみなさんの食事が、缶詰やレトルト食品ばかりだったんです。それを見て、少しでも出来立ての物を食べて欲しくて、食堂用に備蓄していた食材で炊き出しをしました」

猪狩さんの行動に対して、四倉PAに駐屯していた陸上自衛隊中央即応集団の司令官からは、後日、感謝の楯が贈られました。

復旧作業従事者でにぎわう店内

震災から2カ月が経ち、平成23年5月から双葉郡内の警戒区域への一時帰宅が始まった際には、PAは故郷に向かう人々であふれました。

「久しぶりに顔を合わせて、『今、どこに住んでいるの?』という会話を交わす様子が見られました。ここが再会の場になっていました」と当時を振り返ります。

現在は、一般客も増えて来ましたが、やはり双葉郡へ行き来する県警機動隊や消防団員の姿が目立つPA。

復旧作業は体力を使う仕事ですが、PAの食堂はボリューム満点で、ごはんのおかわりも自由。

「ありがたいことに、県外から応援で来ている機動隊員の間では、異動する際に『食事をするなら四倉PAがお勧め』と申し送りがあるそうです」と笑顔を見せる猪狩さん。これからも復旧復興を陰で支えていきます。

道の駅で夏祭り開催

道の駅よつくら港と、隣接するチャイルドハウスふくまるで8月9、10の両日、「ふれあい夏祭り」が開かれました。サーベルタイガーの形をした大型滑り台エアスライダーや、釣竿で景品を釣り上げるミステリーフィッシングなどのほか、エビやホタテ、イカの海鮮串焼きも人気を集めました。

雨天となった10日は、道の駅の情報館で「ふくしま農祭り2014」や、子どもじゃんがら、キッズチア、フラダンスなどが披露されました。

さまざまなアトラクションがイベントを盛り上げました

CHECK! 動画が見られます

景品は開けてからのお楽しみ。ミステリーフィッシングに挑戦

CHECK! 動画が見られます

大輪の花火が四倉の夜空を彩る

「第2回四倉鎮魂・復興花火大会」が8月16日、四倉海岸で開かれました。

会場には実行委員会のメンバーが作った竹灯篭が並べられたほか、四倉中吹奏楽部の演奏が、大会の雰囲気を盛り上げました。

花火の打ち上げに先立って、来場者が震災の犠牲者に黙祷を奉げた後、会場のステージでは、上仁井田子どもじゃんがら、同じゃんがら保存会、よつくらYOSAKOI美舞蝶組などが演技を披露しました。

打ち上げが始まると、市民から募ったメッセージ花火や大小さまざまな花火が夜空を彩り、来場者の目を楽しませました。

花火を見物していた住民は、「来年以降、四倉海岸での防災緑地や防潮堤の工事が本格的になるけれど、ぜひ花火大会は続けて欲しい」と話していました。

震災犠牲者の鎮魂と町の復興を願って、打ち上げられた花火

CHECK! 動画が見られます

復興へ向けた動き

四倉

四倉小の耐震化工事で幼稚園が仮設校舎へ

今年10月下旬に始まる予定の四倉小学校校舎の耐震化工事に伴い、同校に間借りしている四倉第一幼稚園と四倉児童クラブは、10月中旬頃、校庭に建設中の仮設校舎に移ります。

耐震化は、校舎の外壁を鉄骨ブレース構造にする工事で、工期は平成28年3月末までを予定しています。

また耐震化工事と同時に、校舎1階に整備する第一幼稚園の保育室は、体が小さな園児が利用しやすい内装にするほか、同階の給食準備室の前に、新たに遊戯室を設けます。

四倉小の体育館の前に建設工事が進められている仮設校舎

本町集会所で鍵引き渡し式

震災で大きな被害を受けた本町集会所は、国の復興交付金事業の基幹事業である木質バイオマス施設等緊急整備事業を活用して、平成25年度から市立の集会所として整備が進められて来ました。

集会所は木造平屋建で、施設面積は136・63平方メートル。

8月18日に行われた鍵の引き渡し式で、同集会所運営委員会の長谷川直惠会長は、「災害時の拠点であるだけでなく、日常的にはサークルなど文化的な活動に利用していきたい」と、あいさつしました。

関係者が見守る中、清水市長から鍵のレプリカを受け取る長谷川会長

万が一に備えて津波避難訓練を実施

8月30日の市総合防災訓練で、四倉地区では津波避難訓練が行われ、約1・200名が参加しました。

午前8時40分に大津波警報を知らせる防災行政無線のサイレンが鳴ると、住民は6つの自主防災会ごとに、15ヵ所の津波避難場所に集合。

その後、避難所の四倉高校と大浦小学校の体育館に避難しました。避難所では飲料水などが配られたほか、防災講話もありました。

大浦小学校の体育館でカンパンなどの非常用食品を受け取る参加者

津波避難場所のひとつ、四倉小に集まる住民のみなさん

プレイバック8月 ～過ぎゆく夏を惜しんで～

8月3日 第23歩 仲町ホコ天 ブラブラリー

商店街の通りには多くの模擬店が軒を連ね、夕方からは盆踊りも行われました

8月13日 奉納 じゃんがら念仏踊り

上仁井田の最勝院で、保存会のメンバーと子どもたちが練習の成果を披露

CHECK! 動画が見られます

8月22日 四倉児童クラブ 子どもまつり

教室と校庭にチョコバナナ、からあげなどの販売コーナーが設けられました

8月12日 ふくまるで 夏休み勉強教室

福島高専の3年生が、四倉地区の小、中学生に勉強を教えてくれました

8月17日 上仁井田諏訪神社 夏祭り

カラオケやお楽しみ抽選会が開かれ、フラダンスが会場を盛り上げました

8月23日 楽寿荘 夏祭り

会場には出店が並び、フラダンス、よさこい、盆踊りなどで大にぎわいでした

ふるさとの伝統「獅子祭り」

沼ノ内「子ども獅子祭典」

先月号でも紹介した「沼ノ内鎮守諏訪神社獅子祭典」地域に約350年続く伝統芸能で3人の子どもたちが踊る地域で受け継がれている獅子舞です。

今年は8月24日、本祭りのみ行われました。以前は本祭り前日の夕方から、漁業関係者の家などを中心に回りましたが、震災の影響もあり現在は休止しています。

この日朝から諏訪神社境内で踊り、9時に神社を出発。今回から新しく加わった沼ノ内団地(災害公営住宅)を皮切りに、地区内各所で伝統の舞を披露しました。

今年の沼ノ内獅子メンバー左から雌獅子、永山裕大くん(小5)中獅子、有働凜太郎くん(小6)大獅子、鈴木太陽くん(中1)

CHECK! 動画が見られます

豊間諏訪神社例大祭「獅子祭り」

豊間地区でも約360年続く伝統芸能の「獅子祭り」があります。今年は8月23日宵祭り、24日本祭りで獅子舞が奉納されました。豊間の獅子舞は神社総代会と豊間区とで町をあげて行われ、豊漁豊作を祈り奉納します。

今年は沼ノ内団地でも披露され、団地の住民も伝統の舞を目のあたりにし感慨もひとしおの様子

彦獅子(道化役)はお菓子をくばりながら子どもたちを追いまわします。なかには泣いてしまう子も

舞手は青年会OBが中心でしたが、昨年に瀬谷亮登くん(高2)今年に長谷川朋也くん(中3)が加わり若手担い手ができたことも活性化につながりました。

宵祭り。灯りがぼんやり灯る境内で、時には幻想的に、時にはコミカルに舞い、たくさんの見物客を魅了していました。

豊間獅子本祭り、境内に威勢の良い掛け声が響き渡っていました

CHECK! 動画が見られます

豊間諏訪神社での宵祭り、薄明かりの中、幻想的な舞いに見とれました

よさこいで交流

8月20日、新潟県村上市の村上第一中から44名が訪れ、薄磯団地と久ノ浜の浜風商店街でよさこいを披露しました。

今回で2度目の訪問になる同中学校は東日本大震災をきっかけに双葉郡の広野中との交流が始まり、昨年交流をもった場所を中心に訪問しました。

元気になってもらいたいと中越地震を乗り越えた子どもたちが精一杯踊りました

薄磯団地の住民も「元気をいっぱいもらった大変ありがたい」と話していました

復興へ向けた動き

平

海まち・とよま市民会議

今月は、8月7、28日に行われ、7日は新・祭りプロジェクトと子育てプロジェクトについて話し合われました。

28日は行政を除く市民会議メンバーで1年間をふりかえり、市民会議をより良くするために部会の再編や方向性を修正し、区会との連携を快活にするアイデアを出し合いました。

また冒頭では、市教育委員会から豊間中学校の旧校舎と新校舎の報告があり、まず旧校舎の体育館は躯体の損傷が激しく堤防工事の仮設道路計画の道路にも干渉するので12月を目処に9月から解体準備工を開始することが報告されました。新校舎建設は28年度4月開校予定でしたが28年度中に変更され、体育館も併設されることが報告されました。

市総合防災訓練

8月29、30日、市総合防災訓練が行われ、平地区は29日に実施され豊間、薄磯、沼ノ内地域で約400名の住民が参加しました。

今回の避難訓練で薄磯の山六観光では、観光客の避難誘導も行われ、実戦さながらの避難訓練になりました。また薄磯地区で一部住民や観光客役の福島高専や東北大学の学生がGPSを身につけ避難行動を記録しました。記録データは今後の防災に役立てられます。

鈴木一好同社長は「避難誘導はまずまず良くできたと思いますが、二次避難所までの避難路が無いのが不安です」と震災時孤立してしまった経緯を話し、避難路の早期整備を期待してました。

今回データ収集に使用したGPS端末と地図上にプリントされたデータ

避難訓練を知らずに来た観光客も参加して、鈴木社長先導で高台を目指しました

大学生から見たまちづくり

8月25日、豊間公民館で首都大学東京大学院の学生ワークショップの発表が行われました。学生たちはこれまでもワークショップを行ってきており、これを踏まえた上で今回の発表は大きく3つの部門で構成しました。1つは、公営住宅がテーマ。「集会所からみんなの家へ」と題し、多世代交流や運営システム、集会所の拡張まで盛り込んだコミュニティ活性化を発表。2つ目は産業チームの「じわじわくる豊間の産業」と題し、地元産業の再構築をテーマにコミュニティ形成型産業や人・企業誘致型産業を打ち出しました。3つ目は、自転車を使ったアイデアで「緑の自転車」と題し、自転車を使用したスローライフを提案しました。いずれも大学生の視点でまちづくりを捉えた新鮮な内容が盛り込まれ、参加した住民や区役員たちも発表を関心深く聞いていました。

学生の視点ならではの自由な発想の発表に真剣にメモをとる住民もいました

平地区（豊間・薄磯・沼ノ内）＼PICK UP／

8月6日 スイスと日本の大学生が被災地を通して国際交流

一橋大学とスイスのザンクトガレン大学の学生計30名が薄磯復興協議会を訪れ、復興委員の瀬谷貢一さんが地区内を案内し、復興状況を学生たちに伝えました。両大学生も関心深く聞き意見を交換していました。

両大学生は市内視察後東京都内、スイスでも交流学習に行きました

8月6日 静岡県磐田市から豊間小・中に義援金

豊間小・中学校へ磐田市立第一小・中学校学区内PTAが義援金を寄付しました。磐田市の学校紹介のVTRも同時に送られ、児童、生徒に紹介される予定です。今後も学校同士の交流が続きそうです。

代表で寄付を受け取る高濱俊彦中学校長（前列左）と瀬谷貢一小学校PTA会長（前列右）

8月19日 大学生による市スタディーツアー

薄磯に東京都日野市から明星大学の学生21名が視察に訪れました。復興委員の室谷和範さんが薄磯の町を案内。参加した3年生の星野岳史さんは「薄磯の復興にも参加したい」と話していました。

震災時、住民が避難した神社の階段の下で避難時の様子を伝える室谷さん

8月16日 地域の風物詩 沼ノ内夏祭り

第16回沼ノ内夏祭り（同実行委員会主催）が沼ノ内第一公園で行われました。盆踊りや歌謡ショー、大道芸や和太鼓、よさこいが披露され、会場では婦人会、子ども会などの出店もあり、花火で締めくくりました。

じゃんがらも披露され神谷作じゃんがら保存会の太鼓や鉦の音が響きました

本番が近づき、練習に熱が入る子どもたち

江名獅子祭
伝統を受け継ぐ子どもたち

江名に伝わる獅子舞

毎年8月下旬に行われる江名の獅子舞は、1769年（明和6年）頃に始まったと言われています。大漁祈願や五穀豊穣、家内安全などの祈りを込めて、大獅子・中獅子・雌獅子が舞います。

約80年前からは下高久の方が代理奉納するようになり、かつてはたくさんの人で賑わいましたが、年々見物者は減ってしまいました。

そこで、なんとか地元の人たちの手で行い、昔のような活気を取り戻したいと、昨年「江名諏訪神社文化伝統保存会」を設立しました。子どもたちによる三匹獅子舞の奉納を行うために舞い手は江名小学校で募集しました。古くからの伝統行事を地域の人たちが行うことで、住民の関心も高まりました。

篠笛を演奏する江名守康禰宜は「子どもたちが頑張っている姿が活力になり、祭を盛り上げてほしい。町を離れて暮らす人も見にいこうかというきっかけになれば嬉しいです」と、笑顔を見せます。

子どもたちの挑戦

「獅子舞をやりたいと思ってやり始めた」そう元気に話してくれた子どもたち。今年、獅子舞の奉納を行った江名小学校に通う6年生の柴﨑健士郎くん、鈴木美咲ちゃん、山野辺千尋ちゃん、相浦琴羽ちゃん、松浦瑠花ちゃん、5年生の柴﨑有優ちゃん、金成柚羽ちゃん、早川彩音ちゃんの計8名です。大獅子、中獅子、雌獅子、花笠を8人が順番で務めます。

子どもたちは今年の3月から下高久の戸部修二さんの指導の下、練習に励んでいました。普段は無邪気なみんなですが、練習が始まると「よろしくお願いします」と、きりっと真剣な表情になります。3人ずつ交代で練習するなか、ほかのみんなもおばこの歌を大きな声で歌います。練習が終わると「回り方が逆にならないように気をつけよう」など自分たちで気づいた反省点を話し合います。

8月になると獅子を頭にのせ、本番さながらの練習を開始。大獅子の健士郎くんは「獅子舞は神様だから失敗せずに踊りたい」と意気込んでいました。

そして、8月30日の宵祭と31日の本祭では、見物者の前で勇ましく獅子舞を披露した子どもたち。暖かな拍手とともにみんなの笑顔が輝いていました。

「天下一」と書かれた前だれに恥じぬ、立派な舞を見せてくれました

CHECK!
動画が見られます

市総合防災訓練で津波避難訓練を実施

8月29日、「震度6強の地震が発生し大津波警報が発表された」という想定で市総合防災訓練が行われました。

「大規模災害に備えた地域と学校等との連携強化」がテーマ。永崎地区では約400名が訓練に参加し、住民らは避難所となる江名中学校の体育館に集まりました。生徒たちは避難して来たみなさんにカンパンや飲料水を配るなど、自分たちで考えて行動していました。

負傷者搬送訓練で、竹と服を使いタンカを作った生徒たち

市小名浜消防署江名分遣所の菅波祐所長による防災講話ののち、応急手当法や負傷者搬送訓練が行われました。

Rock Corps（ロックコープス）参加希望者がボランティア

RockCorpsとは4時間のボランティア活動をするとライブを見に行けるという仕組みです。9月6日に福島市のあづま総合運動公園で、日本で初めて開催されました。

そのチケットの入手希望者が8月23日に、ザ・ピープルがオーガニックコットン栽培をしている上神白の伊藤ファームで、畑の雑草を刈るボランティア活動を行いました。

照りつける日差しのなか、夢中で作業をする参加者

参加したのは、市内はもとより、東京や大阪の方など43名。「楽しいし、いい運動になりました」と爽やかな汗を流していました。

復興へ向けた動き

小名浜

みんなで考える走出地区の今後

お年寄りの健康作りの場にもなるよう、健康器具の設置という意見も

7月26日、江名仮設公民館で第2回走出土地利用検討委員会が行われました。

第1回で出された「海との繋がりを持たせた空間にしたい」という意見を踏まえ、会議では、長く愛される公園を目指すこととして意見を交換。今回から、女性消防クラブや子ども会から女性の参加もあり、四季を楽しむ木々の植樹や子どもたちが安心して利用出来るよう安全面での配慮などについて話し合われました。

大平川1号橋が供用開始

永崎小学校に通う子どもたちも通学に利用しています

永崎字大平地区の大平川1号橋が完成し、7月31日14時から供用を開始しました。

この橋は、津波により全壊したため、平成25年1月から復旧工事が進められていました。

工事中は、歩行者や自転車が通れるように仮橋を設置し、通行していました。

なお、橋の前後の取り付け部分の道路も9月末に完成する予定です。

小名浜港湾合同庁舎(国)工事進捗状況

小名浜港背後地津波復興拠点整備事業により国・県庁舎の集約化を図るため、今年3月から区画整理地内の東側地区へ移転工事が進められている小名浜港湾合同庁舎。

完成は来年3月を予定しており、建物階数は5階建て、入居官署は海上保安庁第二管区海上保安本部福島海上保安部や厚生労働省仙台検疫所小名浜出張所、農林水産省横浜植物防疫所塩釜支所小名浜出張所になります。

また、隣接する西側には来年4月から福島県小名浜港湾建設事務所の建設工事が開始される予定です。

現在、工事が進められている小名浜港湾合同庁舎

····お知らせ····

小名浜「絆」まつり

- ●日にち　10月12日(日)
- ●時　間　10:00～16:00
- ●場　所　本町通りから竹町通り
- ●内　容　手作り品販売・ヨーヨーつり・双葉マミーすいとん販売・模擬店・本町通り芸術祭（モバイルハウス作成）・アコースティック演奏など

※19時頃、プロジェクションマッピングを行う予定です。

小名浜ピックアップ　\PICK UP/

美味しい魚いっぱい! 中之作朝市

8月9日、中之作魚市場で第5回中之作朝市が行われました。蟹汁200食やメヒカリ300食が振舞われ、いわきの幸を味わい笑顔を見せる来場者。組合オリジナルの「かつお南蛮揚げびたし」の試食販売も人気を集めました。

また、かつおの水揚げも行われ、賑やかな中之作の朝となりました。

無料の蟹汁は大好評。あっというまになくなりました

盆踊り開催

江名(8月14日)

江名港で行われた盆踊り大会。真福寺ご詠歌愛好家による合唱や、いわき海星高校生徒による新盆じゃんがら念仏踊りなどが行われました。

また、櫓には埼玉県所沢の高校生が江名区復興祈願のため作成した旗も飾られ、集まったみなさんは楽しいひとときを過ごしました。

おはやしをする江名小学校の子どもたち

CHECK! 動画が見られます

永崎(8月15日)

蓮乗院境内にて永崎郷土芸能保存会の主催で盆踊りが開かれました。かつて永崎小学校でも盆踊りを行っていましたが、震災後は蓮乗院でのみ行われています。

読経が行われたのち、保存会のみなさんのおはやしに合わせて、盆踊りの輪ができました。

おはやしが聞こえてくると、約30名の住民が集まりました

勿来に、いわきに元気と笑顔と夢を!

勿来工業高校　フラ愛好会
「Mauloa Laulea（マウロア・ラウレア）」

市内各地のさまざまなイベントで活躍し知名度も高い、勿来工業高校のフラ愛好会「Mauloa Laulea」。たくさんの人々を笑顔にしてきた同愛好会の発足の経緯や、顧問の先生、生徒たちの思いを聞きました。

発足当時から現在まで フラ愛好会の活動

発足のきっかけは、同校の文化祭でした。

現在、同愛好会の顧問である志賀敏子先生が、震災の年の8月に赴任。教員になる前、趣味でやっていたというフラの経験を生かして当時の3年生に指導を行い、文化祭で発表したのが発足のきっかけだそうです。そして、その演技を見た後輩たちの「私もやってみたい!」という声により「Mauloa Laulea」が結成されました。

その後は、老人ホームへの慰問活動や幼稚園・保育園での披露、仮設住宅への訪問など、ボランティア活動にも積極的に参加。また、昨年2月からは男子生徒もチームに加わり、地域のイベントにも多数出演。今では大勢の人々から人気を得ています。

気持ちをひとつに 一丸となって踊るフラ

現在は女子4名、男子4名の計8名が活動中。放課後は毎日視聴覚室に集まり、志賀先生の指導のもと練習に励んでいます。本番で身に付けている衣装はすべて手作り。活動時間の中で、志賀先生のデザインを参考に生徒たち自ら制作するそうです。

また、市内で行われている「フラガールズ甲子園」にも出場。今年8月末に行われた第4回大会では、日頃の練習の成果を思う存分発揮し、見事優秀賞を受賞しました。「難易度の高い技が多くありましたが、応援してくれた皆様のおかげでチームの心がひとつになり、成功させることができました」と、大会を振り返る志賀先生。

これからもメンバーが心をひとつにし、人々を楽しませることのできる、魅力あるフラを踊り続けます。

代　表

草野　里帆（りほ）さん（3年）

舩山　司さん（3年）

今は入部して間もないメンバーがいるので、まずチームの基礎レベルを上げることを課題としています。これからの目標は、見てくれた人が心から楽しめるような演技をすること。そして、先輩たちが残してくれた「Mauloa Laulea」という名前は「永遠の友情」という意味なので、みんなが仲良く心をひとつにして、チームの伝統を守っていきたいです。

顧　問

勿来工業高校
フラ愛好会

志賀　敏子先生

教師になってからフラチームを結成したのは、以前勤めていた平工業高校が初めてでした。その時は男子生徒のみのチームでしたが、現在は男女混合のチームなので、振り付けもそれぞれに指導しています。フラはメンバーと息を合わせることが大切。生徒たちにはこれからも相手を思いやる気持ちを持って、心をひとつに仲良く活動して欲しいです。

練習の様子。鏡に向かって自分の動きを確認しながら行うのが基本です

CHECK! 動画が見られます

今年7月に行われた四時ダムまつりでの様子。イベントに合った曲を選んで披露するそうです

復興へ向けた動き

勿来

小浜漁港海岸公衆トイレ移設について

津波により建物や給水設備の機械が被害を受け、使用できなくなっている小浜漁港海岸の公衆トイレの移設工事が進んでいます。

今年5月からトイレの復旧作業を開始。並行して進められている海岸堤防工事との取り合わせの都合上、現在の位置から海側15m先の場所に移設する作業が行われました。

トイレ工事につきましては、引き続き、配管や内装・外装の復旧工事を行い、今年10月までに完成する予定です。

詳しくは県小名浜港湾建設事務所・建設課まで。☎0246-53-7147

8月に行われた小浜漁港海岸トイレ移設作業中の様子

第3回 防災緑地利活用検討委員会

8月21日、第3回防災緑地利活用検討委員会が、勿来支所3階大会議室で行われました。

今回は県の職員により、現在行われている岩間地区の堤防かさ上げ工事と防災緑地について、詳細設計の内容を説明。それに関する質疑応答が交わされ、その後3つの班に分かれて討議が行われました。

なかでも多かったのが「公園が狭くなってしまったので、高台への法面をもっと有効的に活用できないか」という要望や「人が集まる場所になるので、トイレなどの水場や外灯はやはり必要ではないか」という意見。維持管理の問題を解決することが、今後の大きな課題となりそうです。

勿来の地域資源として活用できる防災緑地を目指し、さまざまな意見が出されました

1,200年の伝統を受け継ぐ 御宝殿 熊野神社例祭

錦町御宝殿、熊野神社の例祭が、7月31日の宵祭、8月1日の本祭と、2日間にわたって執り行われました。

現在も古くからの伝統を継承して行われる同祭では、大漁・豊作を願う「鉾立神事」ほか、8名の小学生による「稚児田楽」や「風流」を披露。また、近隣の園児による和太鼓演奏や花笠音頭の披露も行われ、神社境内は見物客で賑わいました。

豊作を願う「兎の鉾」と大漁を願う「烏の鉾」を競って立てる鉾立神事。今年は「兎の鉾」が先に立ちました

CHECK! 動画が見られます

宵祭にて、錦須賀海岸での潔斎へ赴くみなさん。今年の勅使童児は赤津諒くんが務めました

「びんささら」という古典楽器を使っての稚児田楽。独特のすり音から「ざらっこ」とも呼ばれます

万が一に備えて

8月29日、勿来第二中学校を避難所に、関田地区の小・中学生、地域住民を対象とした市総合防災訓練が行われました。

避難所では、倒壊した建物の排除や初期消火など、勿来消防署による防災訓練も実施

なこそ地区だより

楽しい夏休みの思い出

7月30日、「夏休み子ども映画会」が植田公民館で開かれました。

「ぞくぞく村のおばけたち」など、合わせて5本の作品を上映。参加者は約150名と大勢の観客が集まり、映画の鑑賞を楽しみました。

夏の風物詩とともに

8月13日、〈養護老人ホーム千寿荘〉で遠野町入上青年会による、じゃんがら念仏踊りが披露されました。また、翌週21日には、震災後初となる納涼会を開催。今回は入居者や関係者のみでの開催となりましたが、わたあめなどの屋台も設けられ、笑顔あふれる1日となりました。

いわき市 ふるさとだより 第40号 平成26年9月20日発行
●発行:いわき市 ●編集:有限会社 いまぁじゅ ふるさとだより編集室
●編集室:〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3 プリンセス・アイ1F
Tel&Fax:0246-26-5157
Mail:furusato@asally.co.jp http://www.furusatodayori.com

できごと PICK UP

応急仮設住宅や雇用促進住宅などで行われたイベントを紹介

8月8~10日 第5回ハイスクールサミットin東北 開催
いわき産業創造館

初めての福島県開催となり、全国から36校の高校生、87名が参加し福島の未来や復興について話し合いました。市内からは磐城高校の生徒7名が司会、記録担当として参加。2日目には前日に行った意見交換の発表の後、安倍首相夫人の昭恵さん、森雅子少子化担当大臣、小泉進次郎復興政務官らとの質疑応答があり、最終日には被災地視察が行われました。

北は北海道から南は宮崎県の高校生が集い、ぞれぞれの目線で話し合う様子

8月9日 親子でかご漁体験 潮の香りを満喫!
沼之内漁港

市漁業協同組合主催で今年度1回目の親子漁業体験バスツアーが行われ、40名が参加しました。台風の影響で、予定されていた塩屋崎灯台までの乗船体験はできなかったものの、前日に沼之内の漁業者が岸壁に仕掛けていたかご漁を体験。引き上げたかごにかかっていた、カニや巻き貝、どんこなどの生きた魚介類に触れ、子どもたちの目は輝いていました。

引き上げられたかごの中を興味深くのぞき込み、歓声を上げる子どもたち

8月20日 心に響け! コンサート
中央台高久第一応急仮設住宅

岩手県釜石市出身の歌手、響貴(ひびき)永幸(えいこう)さんのミニコンサートが行われました。独特の衣装で登場し、寿司桶で作られているギターの演奏と声量溢れる歌声を披露しました。また、故郷への想いから震災の語り部として作曲された「炎~ほむら~」など、辛い現状と悲しみ中で生き抜くことを綴った楽曲も披露。集まったみなさんは、静かに目を閉じ歌声に聞き入っていました。

コンサート終了後、出演者とともに記念写真に納まる住民のみなさん

8月26日 街なか散歩「まざり~な」バスツアー
交流サロン「ぷらっと」

震災で移転を余儀なくされた方たちが、新しい場所に親しみを持って生活ができるようにと始められた活動「まざり~な」。加盟店として協力している市内の商店を巡るバスツアーを行っています。今回は4回目で、平、湯本地区3店舗を訪問。「野口雨情記念館」や「続・おらほや」、「古田部米店」に足を運び、地域の方々と親交を深めました。

「野口雨情記念館」で手芸品を手に取り、出来映えに感心する参加者のみなさん

なんでも伝言板

将来のライフプランを無料で個別アドバイス!
「住まいと暮らしの再建相談会」

◆10月11日(土)
市文化センター第3会議室
◆10月26日(日)
勿来市民会館第1会議室
◆開催時間
①10:00 ②13:00
③15:00(各90分程度)
※お申し込みは各開催日の3日前まで。
【予約・問い合わせ】
市ふるさと再生課
☎0246-22-7437

日本太鼓「TAKERU」コンサート

1部は日本一の津軽三味線奏者と男性琴ユニットとの和楽器のコラボ、2部は和太鼓中心で行われ、地元出演者として小名浜高校武城太鼓のメンバーも参加します。
◆日時 10月25日(土) 16:00~
◆会場 いわき芸術文化交流館アリオス
【チケット問い合わせ】
☎080-1036-6668 (福島様)
☎090-8316-7858 (田中様)
【チケット取扱い】
アリオスチケットセンター
☎0246-22-5800

被災地専用の電話相談窓口「よりそいホットライン」

被災者の悩みや法律、法的手続きなど、どんな困り事にも専門員が電話にて一緒に解決する方法を探します。通話による聞き取りが難しい方は、ファクシミリでのご相談にも応じています。
■一般社団法人
社会的包摂サポートセンター
0120-279-226
FAX 0120-375-727
(24時間通話料無料)

いわき万本桜プロジェクト植樹会

震災で被害を受けた人々の心を元気にしようと、平成23年5月より月1回、県内外から参加者を募り、市内の山林に桜の木を植える活動が行われています。
◆植樹会 10月26日(日) 9:00~
(10月~翌年5月までの毎月月末の日曜日)
◆場所 平中神谷付近の山林
◆定数 50本(1開催ごと)
料金等問い合わせは下記まで。
いわき万本桜プロジェクト事務局
☎0246-88-8970 (志賀様)

受講料・テキスト代・受験料無料 PC技能講習会「フォトショップ・イラストレータコース」

◆期間 10月20日~12月3日
◆時間 9:00~15:50
◆場所 いわきニュータウンセンタービル内
◆定員 15名
◆申込締切 10月10日(金)
【申し込み・問い合わせ】
福島広域雇用促進支援協議会
☎0246-84-6285

災害公営住宅の整備状況5

8月20日現在

勿来四沢団地

○建設戸数/集合住宅 20戸(ペット可)
戸建住宅 30戸
○構造/集合住宅 RC造5階建て
戸建住宅 木造
○入居開始/集合住宅 平成27年1月
戸建住宅 平成27年12月 予定

現況写真(集合住宅)

ふるさとだよりに情報やご感想・ご質問をお寄せください

●メールの方/furusato@asally.co.jp
携帯電話からのメールはQRコードを読み取ってください。
●FAXの方/☎0246-26-5157
●おたよりの方/左記編集室まで

いわきあいあいで情報発信中!!
いわきあいあい 検索

ふるさとだよりの記事が動画でも見られます!

スマホやタブレットでの見方

①COCOARアプリを端末にインストール
iPhone /iPad…AppSTOREからダウンロード
Android…Google Playからダウンロード
ココアル 検索
②インストール後、アプリを起動すると右記の画面が表示されます
③マークをタップします
④画像をスキャンします
※画像に光が反射しないようにスキャンしてください
⑤認識するとコンテンツが表示されます